

<調査の実施概要>

調査方法: WEBアンケート調査

調査期間: 2021年2月下旬

スクリーニング対象者数: 34,451サンプル

本調査: 1,500サンプル(過去1年以内の遊技経験者)

※スクリーニング・本調査いずれも性・年代の人口構成に合わせたウエイトバック集計を実施

調査エリア: 2大都市圏を中心に政令指定都市を含む道府県、その他地方を合わせた全国47都道府県

パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021

【企画・実施】株式会社シーズ シーズリサーチ

【共同調査】EBI/APJ

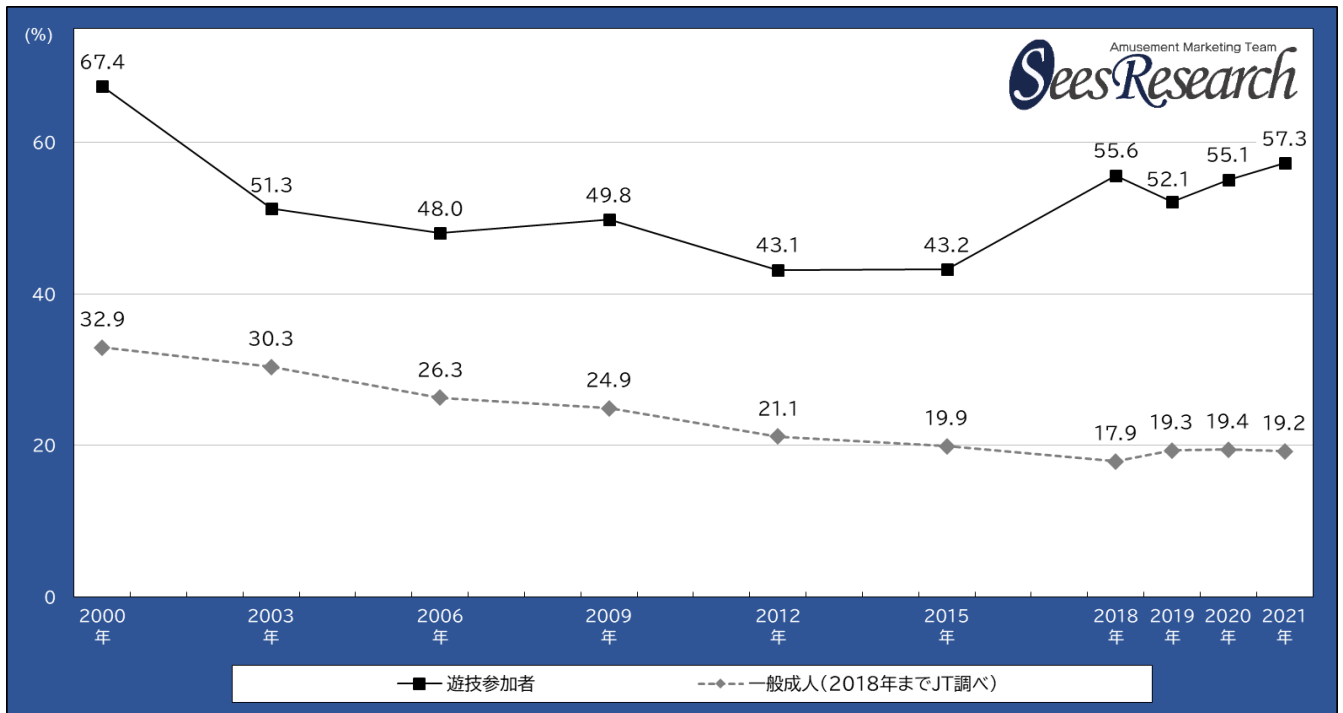
【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021 調査結果速報】

一般成人/遊技者の喫煙率

一般成人 n=33,582

遊技参加者 n=2,861

(20歳以上対象)

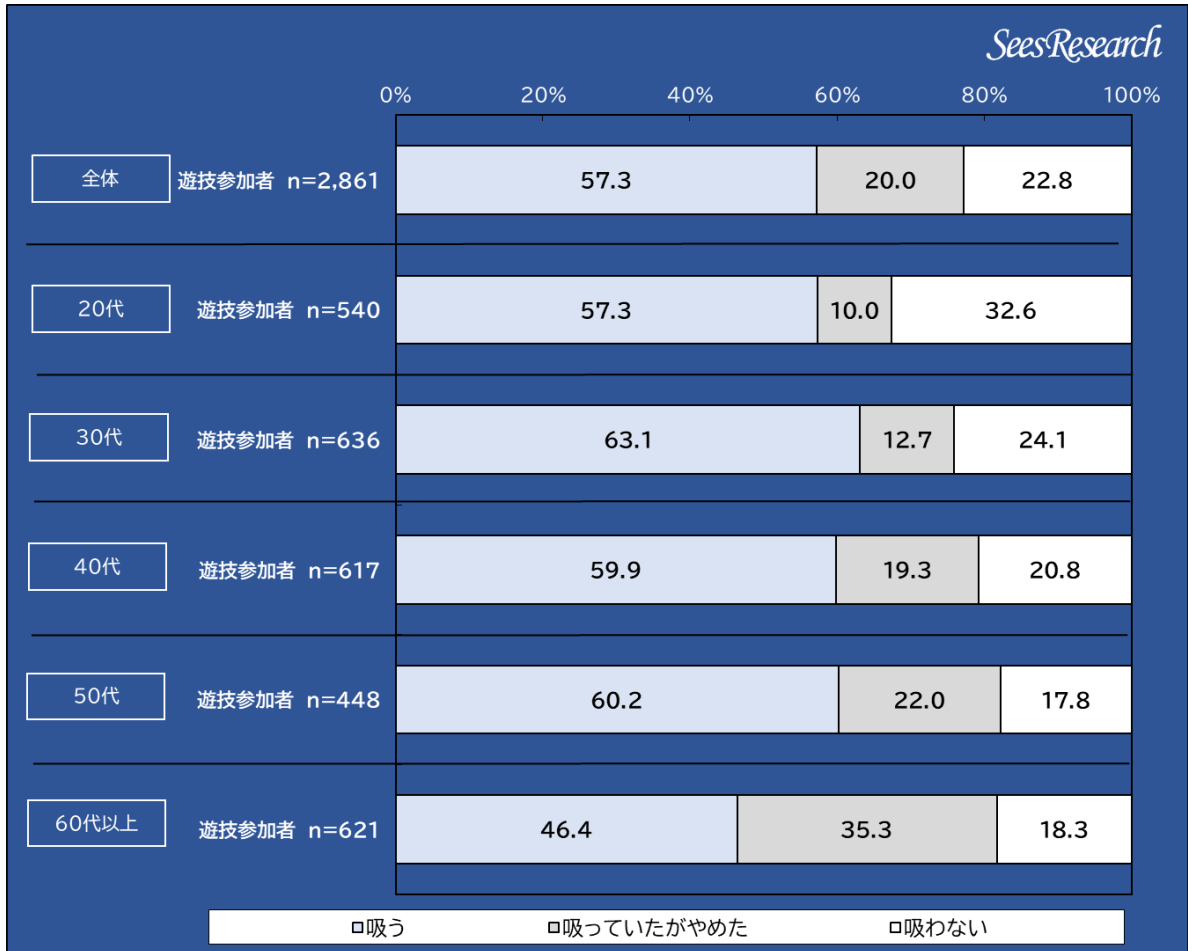


2021年の一般成人の喫煙率は、19.2%と横ばいで推移したが、パチンコ・パチスロ遊技者の喫煙率は57.3%となり、2020年からさらに上昇した。遊技者の喫煙率は、一般成人の喫煙率に比べ約3倍となり、遊技と喫煙の相関性は、引き続き非常に高いと言える。

しかし、喫煙者を取り巻く環境は厳しくなっており、2020年4月「健康増進法の一部を改正する法律」が成立し、望まない受動喫煙をなくすための取組がマナーからルールへと変わった。

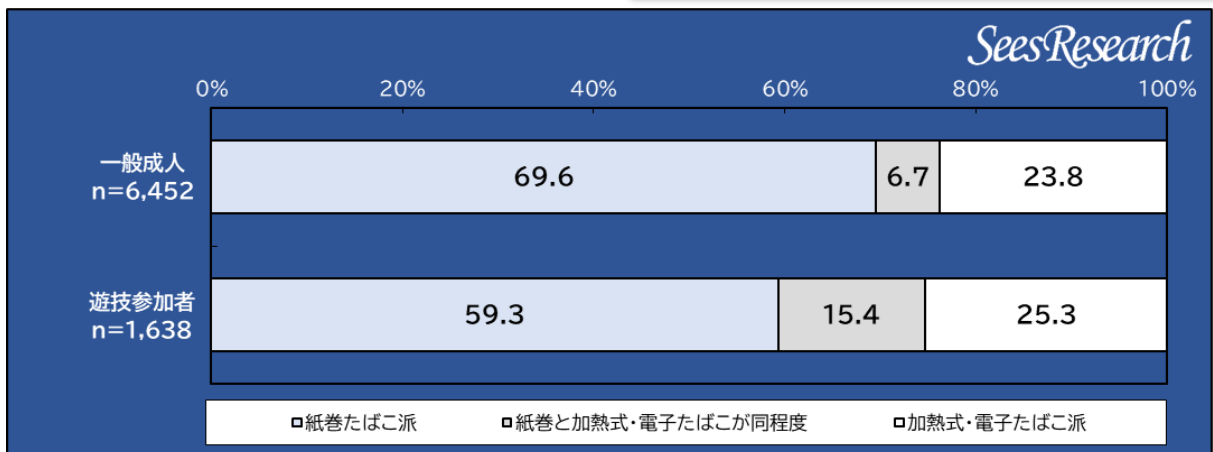
異業種に比べ、遊技者の喫煙割合が高いパチンコ店では、喫煙環境の整備も必要とされた一方、分煙を行うことで非喫煙者の来店頻度が上がるといった遊技動機に繋がっているケースもある。時代とともに、たばこを吸う人と吸わない人のどちらにとっても快適な遊技環境が求められている。

遊技者の年代別喫煙率



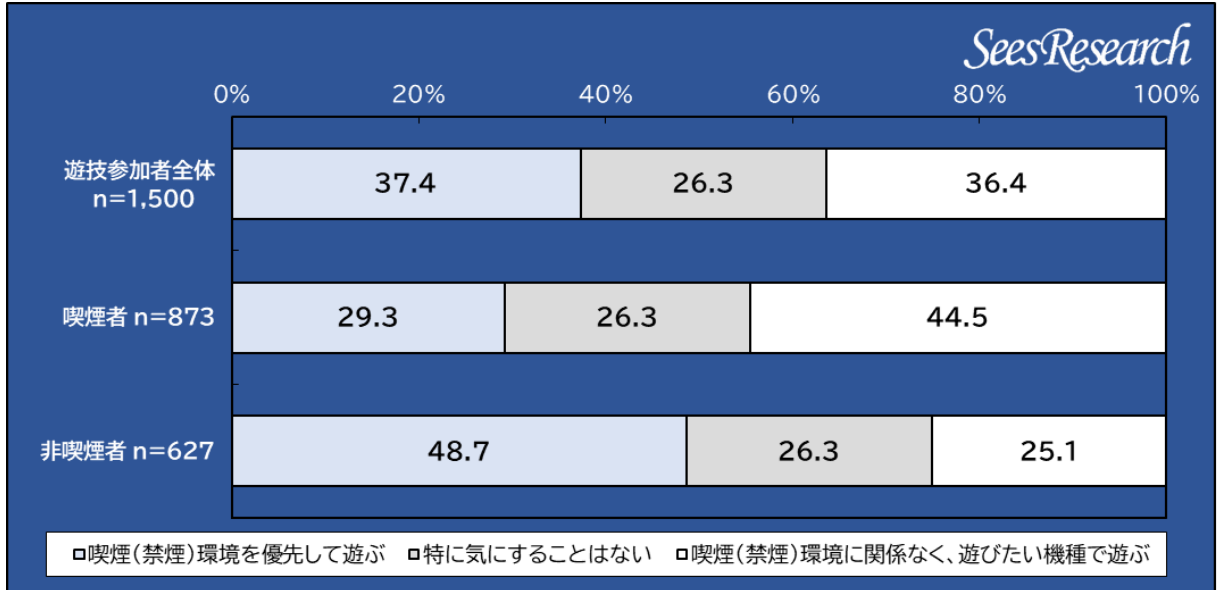
喫煙者を年代別で見ると、遊技者のボリュームゾーンとなる30代は、喫煙率が63.1%と最も高かった。60代以上の喫煙率は他の年代に比べ低いが、吸っていたがやめた人が最も多い。

たばこの種類



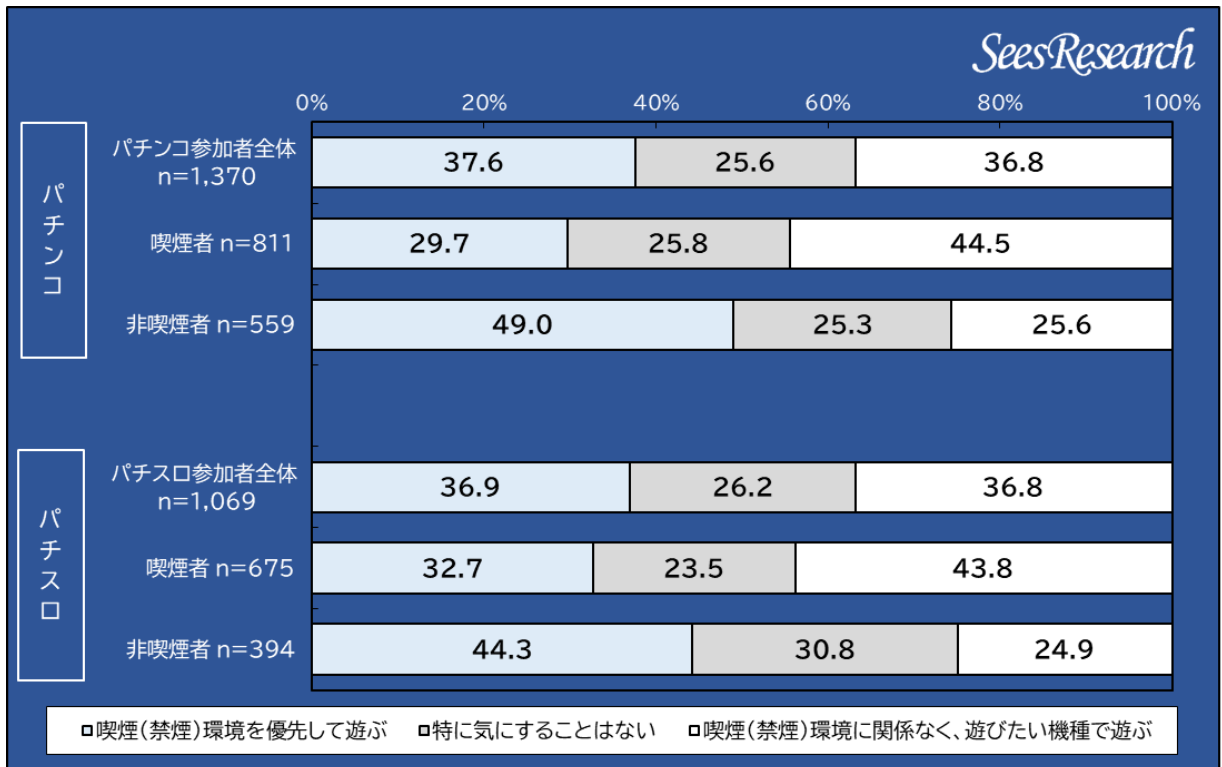
遊技者のたばこの種類では、紙巻たばこを吸う人（紙巻たばこ派+加熱式・電子たばこが同程度）が、74.7%で最も多く、加熱式・電子たばこを吸う人（加熱式・電子たばこ派+紙巻たばこが同程度）は、40.7%となった。また、一般成人に比べ遊技者の方が、加熱式や電子たばこを吸う割合は高いが、昨年と比較しても吸うたばこの種類にさほど変化はみられなかった。

喫煙と遊技の優先順位(全体)



喫煙者と非喫煙者の喫煙と遊技の優先順位は、喫煙者より非喫煙者の方が、遊びたい機種より遊技環境を優先して遊ぶ傾向が高い。喫煙者を見ると、約70%の人が喫煙環境にこだわっていないといえる。

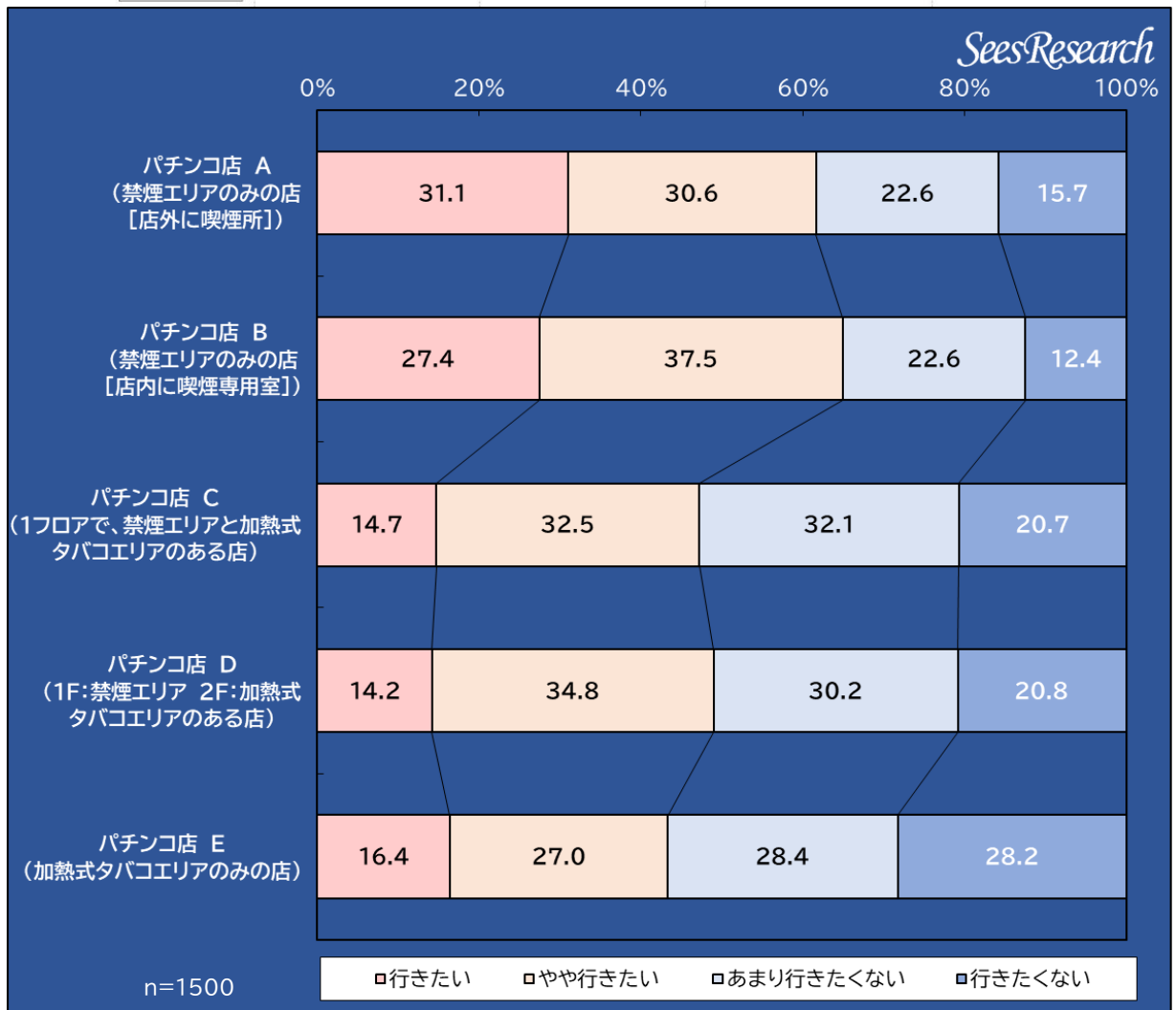
喫煙と遊技の優先順位(遊技別)



パチンコ・パチスロ別で喫煙者を見ると、パチスロ遊技者の方がパチンコ遊技者に比べ喫煙環境を優先している割合が若干高い。非喫煙者では、パチスロ遊技者に比べパチンコ遊技者の方が喫煙環境を優先している割合が高い。

【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021 調査結果速報】

喫煙・禁煙環境店舗の来店意向



喫煙者・非喫煙者ともにパチンコ店A～Eそれぞれの遊技環境別に来店意向を聞いたところ、最も来店意向（行きたい+やや行きたい）が高かったのは、店内に喫煙専用室がありフロアが禁煙となるB店となった。全体的には、喫煙者が多いなかで、B店が選ばれる要因のひとつとして喫煙者の紙巻たばこ率の高さがあげられる。紙巻たばこを吸う人にとっての遊技環境は、いずれの店舗においても、喫煙専用室でしかたばこを吸うことが出来ない。そのため喫煙環境や設置機種に制限がなく、店内の喫煙室でたばこが吸えるB店が望ましいと考えられている。また、非喫煙者にとってもA店やB店は、いずれも加熱式等の煙を気にすることなく遊技が出来る。よって、喫煙者と非喫煙者の全体的な遊技環境のバランスを考慮すると、現状ではB店が支持されている理由と考えられる。